北上小学校区　きずなづくりトークの意見概要と方向性　　10 月 4 日　北上文化プラザ

地域	現況・課題	方向性・対応
芙蓉台	○2年前までは、決められたことのみ行う防災訓練だった。 ○要援護者や避難所に入りきれない人をどうするか、考えなければならない。 ○坂道でも使える担架を 11 個購入した。 ○芙蓉台は高齢化が進み、地域の中で若い世代をなかなか育てることができない。 ○自主防災会だけでなく、地域振興の組織も任期が1年で終わってしまう。多年度化していけば、自治会同士のコミュニケーションも増えるのではないか。 ○自治会のからの要請があれば、スポーツ推進委員会もいつでも動ける準備ができている。	○市からは災害に関するデータの提供をしてほしい。 ○防火水槽を設置したら、しっかりPRしてほしい。
	○芙蓉台で、要援護者のためのボランティア組織を立ち上げているが、課題が多い。毎月1回会議を開いている。 ○今年からは、要援護者の安否確認を組長がすることになった。	○要援護者に関しては、助ける側も助けられる側も危険な状態に陥りやすい問題で、各町内会で意見が異なる。対応に苦慮している。みなさんのご協力のもと、解決していきたい。（三島市）
	○要援護者は年々増えており、現在のボランティアの人員だけでは対応できない。 ○自主防災会のメンバーが毎年変わり、上手く機能していないため、ボランティア組織の格をあげて自主防災会としたい。 ○自主防災会で月1回の事務局会議を開き、問題点をひとつひとつ解決していくようにしないと、実際に災害が起きたときに機能しない。 ○ボランティアの2割がPTAの父兄で、『子供がお世話になっているから』と参加してくれる。	○支援ボランティアを集めたいが、お金がかかる。保険など必要最小限の金額は出してほしい。 ○町内会に、ボランティアを集めるための資金など、必要な支援が行き渡るような仕組みづくりを考えていきたい。（三島市） ○中学生のボランティアを上手く使っていきたい。 ○防災を中心としたスクールガードを立ち上げたい。
エンゼルハイム芙蓉台	○今まで防災に疎かったので、話し合いの場を設けた。 ○管理事務所に水、トイレ問題について相談した。	○避難先の小学校は危険なので、災害時はマンションを離れない、自主防災倉庫を用意する、ということで意見がまとまった。 ○マンションのようなコミュニティほど、災害時に協力し合う必要がある。日々のコミュニケーションが大切になる。（市長）
萩	○前年度の訓練をベースにした。 ○新たな工夫として、消防団に協力してもらってAEDの取り扱い訓練を行った。	

徳倉第6	○避難場所で、1家族で1畳分という生活スペースがどの程度なのか、実際に体験してもらった。	○避難場所のスペースは限られているので、自宅が安全な状態であれば、避難場所に来る必要はない。昭和56年以前の建物は耐震補強をしてほしい。（市長）
	○消化器を使わず、バケツリレーで水を消した。	○東北の震災で火災が発生したのは旧型の石油ストーブが原因。冬場のストーブに注意するよう呼びかけをしてほしい。（市長）
	○地震も怖いが水害も怖い。青木橋は台風や集中豪雨の際に水浸しになり、近くに住むものにとっては大変危険。 ○常備消防と水利組合で、水門の開閉に関して意見が異なる。 ○水利組合が全ての水害の状況を把握することはできないので、連絡を取り合っている。 ○消防署に警報時や真夜中の水量の調整をしてもらっている。	○水門を新設するよりも、きちんと管理してほしい。
徳倉第5 自治会	○避難場所での自分達の生活スペースを実体験してもらった。 ○170名が参加した。 ○避難する際、組長が自分の組の要援護者が避難できる状態かを確認し、町内会に報告するようにした。	○要援護者は車椅子で連れて行く事例もある。
北上小学校	○子供たちに避難経路の確認をさせ、休み時間を想定した防災訓練を行った。 ○高学年には講師を招いてDIG、図上訓練を行い、地域の防災施設について確認させた。 ○地域防災会議で避難場所である運動場は液状化が心配との意見があり、検討中である。 ○保護者には、地域防災会議で備蓄物資を一緒に見てもらったり、指導してもらったりしている。 ○地震発生時、保護者にどの程度の震度で学校まで迎えに来てもらうか、マニュアルを配布して通知している。 ○訓練に参加した子供たちの意識は、『防災訓練をした』という程度に留まっている。	○小学生には授業の一環として訓練に参加させてほしい。 ○小学校では半強制的に訓練をやってもらいたい。 ○小学校での防災訓練の回数を増やしてほしい。 ○軌道に乗るまでは、保護者ではなく小学校が主導で防災対策を進めて行く方針である。 ○北小でPTA主催の訓練が行われた。参考にしてほしい。（市長）

全体	○町内会の方で訓練に保護者を集められればよいのだが、なかなか時間を取れない人が多い。	○子供だけでも町内会で集めて訓練を行う必要がある。
	○罰金を課すなど、防災に関してはある程度強制力をもたせる必要がある。	○強制力をもって参加させるのではなく、自分を守るための訓練だということを伝えて、参加させてほしい。（市長） ○ペナルティーとして集めるお金の使い道による。防災の備蓄にまわすなど、しっかり使い道を考える必要がある。 ○お金を出せば参加しなくて済む、と考える人が出てくる。
	○防災訓練では若手が育ってきていない。訓練に参加する人は同じ顔ぶれになってしまう。 ○参加するメンバーが固定されているのが問題。	○現在の参加者の中で年齢層を広くしていきたい。 ○訓練に参加しない人には、『津波で助かった人は普段防災訓練に出ていた人』であることを伝えてほしい。（市長）
	○自治防災会の任期が1年で終わるのが早すぎる。	○要援護者の把握も必要なので、若手に最低5年は務めてもらうようにしたい。
	○まちづくりトークの成果はでてきている。しかし、お互いに言いっぱなしで討論する時間がない。	○町内会だけではカバーできない点が多く、このような校区単位の集まりが必要になってくる。みなさんだけで集まる機会をつくっていきたい。（三島市）
	○いざ火災が起きたとき、消防がどこまで対応できるか分からない。	○住民の方でも防げる火災がある。消火に協力してもらいたい。 ○行政には耐震防火水槽の増加と、その分布の周知をお願いしたい。
	○いざというときに助け合うために、1人暮らしの高齢者等が近所の住人と仲良くできるよう活動している。 ○子供たちも家庭で話したりテレビを見たりして震災に対して意識を高めている。みんなで助け合えるようにしていきたい。 ○ここ数年はAEDやバケツリレーなど訓練の中身が充実してきている。	○自主防災会は町内会単位。それぞれの立場の役割を考え、連携するべき。個々の町内会で取り組む時期では無いのではないか。 ○運動会は、訓練への参加を呼びかけることが出来る良い機会である。ぜひ参加人数を増やすよう取り組んでいただきたい。（市長） ○行政の方でも、飲料水のタンクをつくるなど、災害に対してもっと予算をとり、対策を練る姿勢を見せてほしい。